

# 令和7年度 福井県立三国高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 学習支援	授業改善やICT教材の活用をとおして、生徒の興味・関心を引き出す授業づくりを行う。	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自ら学ぶ姿勢を育むことを支援するための授業改善に積極的に取り組み、実践体制ができています。</li> <li>多くの生徒が積極的に学習に取り組んでいる。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>取り組みが十分ではない生徒に対する指導について検討が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT教材や学習支援アプリ、電子黒板や採点支援システムの活用など、学校DXに向けた取組を進める。</li> <li>定期的な面談を実施し、個々が抱える問題の早期発見・解決に努めるとともに、個別の学習支援に結びつける。</li> </ul>
進路支援	a. 生徒が、自己の志望する進路について関心を高めることができるように支援する。	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員は、適切な進路情報の提供や進路ガイダンスを実施することについて、意識的に取り組んでいる。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の進路意識を十分に高めることができなかった。</li> <li>家庭において、学校からの進路情報に基づいた、子どもとの話し合いが充実しなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の進路意識を高め、進路目標が明確になることを目指し、進路オリエンテーション、進路ガイダンス等の内容をさらに工夫する。</li> <li>教職員全体で進路支援について協議する場を設け、共通理解を図る。</li> <li>進路情報の発信を継続して行い、保護者の進路行事への積極的な参加を呼びかける。</li> </ul>
	b. 生徒が、自己の進路実現に必要な実力を高めることができるように支援する。	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>補習や模擬試験を欠席する生徒が多く、その意義を十分に理解させるよう努める必要がある。</li> <li>進路実現のために必要な学力を生徒が理解し、意欲的に取り組むことができるように、個々に応じた支援を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段から生徒の進路意識を養い、補習や模擬試験の意義について理解させる。</li> <li>進路志望調査や模擬試験等から得られた情報を、部内や学年会で共有、分析し、個々の生徒の適性や弱点を把握することにより、日ごろの授業や補習などの活動に活かす。</li> <li>総合型・学校推薦型選抜入試に対応すべく、「面接・小論文講座」の内容を改善して入試支援を強化する。</li> </ul>
生徒支援 人権教育	a. 生徒が学校行事・生徒会活動・部活動・ボランティア活動等に主体的に取り組むことによって、学校生活への充実感や自己肯定感を育成する。	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は学校行事等に主体的に取り組む、教職員の支援体制も整っており、保護者からも一定の評価を得ている。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自ら先を見越した計画性を身につけること。</li> <li>保護者には生徒が学校行事・生徒会活動・部活動・ボランティア活動等に主体的に取り組んでいる様子を知らせていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な行事・活動において、生徒が主体的に取り組むための仕掛けを工夫し、過去や他校の資料などを提示し計画性を持たせる。</li> <li>生徒が学校行事・生徒会活動・部活動・ボランティア活動等に主体的に取り組んでいる様子について、機会を捉えて保護者に伝える。</li> </ul>
	b. 自尊感情・共感能力・想像力・人間関係調整力等を備え、自分の良さとともに他者の良さを認めることのできる生徒を、すべての教育活動を通して育む。	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は人権尊重の態度をしっかりと身につけている。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教職員が人権尊重の観点に立った教育を実施できるよう、理解を深める必要がある。</li> <li>保護者に、生徒がお互いの違いを理解し、自分も他人も尊重している様子を具体的に知らせる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員が人権教育の校外研修会に積極的に参加できる機会をつくり、校内研修会を工夫して教職員の人権意識を高める。</li> <li>PTA通信や保護者会等を通して、生徒がお互いの違いを理解し、自分も他人も尊重している様子を知らせていく。</li> </ul>

地域との協働	地域人材と協働して行う探究学習を推進する。	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2、3年生の総合的な探究の時間が週に2単位となり、息の長い活動ができた。</li> <li>・各学年の授業に継続的に関わる地域アドバイザーが定着し、生徒たちに新たな伴走者を提供することができた。</li> <li>・生徒も関心をもって主体的に取り組める枠組みと支援体制が構築できた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに生徒の関心や進路志望と結びつきやすい取り組みを検討する余地がある。</li> <li>・教員の探究活動への関わり方に濃淡があり、特に所属学年をもたない教員をいかに巻き込むかに課題がある。</li> </ul>	<p>○教員研修を年間を通じて複数回行い、探究学習に関する教員の指導力の向上とその体系化と標準化に取り組み、探究指導の個別指導性を軽減し、生徒のコミュニケーション能力に関わらず、すべての生徒が一定以上の支援が受けられるようにする。</p> <p>○「プレゼンテーションの練習相手」「調査の事前準備支援」などスポット的な支援に積極的に入るなど、所属学年会を持たない教員ならではの役割を担ってもらうことで、学校を挙げた探究を実現したい。</p>
安心・安全な学校	<p>a. 保健情報の発信や「こころのアンケート」の実施等を通して、生徒の心身の健康を保つことに努め、問題の把握と早期対応を進める。</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの教職員が生徒の心身の健康状態に注意を払って適切に対応できており、教職員の体制は概ね整っている。</li> <li>・多くの生徒に自分の健康を意識し、行動しようとする姿勢が見られ、家庭の協力も一定程度得られている。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少数ながら健康意識の低い生徒に対し、学校と家庭の連携の強化と、生徒の健康習慣を育成するための具体的な働きかけが今後の課題である。</li> </ul>	<p>○保健だよりや校内掲示等の情報提供や健康教育を継続し、生徒の健康意識の更なる向上を図る。</p> <p>○また、「こころのアンケート」結果に基づき、健康意識が十分でない生徒への個別指導及び支援体制を強化する。</p> <p>○保護者に対して家庭における健康管理の在り方を適切に発信し、学校と家庭が協力して生徒の健康的な生活習慣の形成を促進する。</p>
	<p>b. 清掃等の美化活動を通して、環境整備に主体的に取り組もうとする生徒の意識と態度を育てる。</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃指導指導体制は概ね確立されており、多くの生徒が清掃活動にまじめに取り組んでいる。保護者からも学校の環境が良好に保たれていると捉えられている。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に美化活動に取り組むようにすることが必要である。</li> </ul>	<p>○清掃活動について、指導体制の継続的な確認と見直しを行い、美化に向けた意識を高め学校全体で取り組む体制づくりを図る。</p> <p>○生徒が美化活動の意義を理解し、主体的に取り組むように日常的な声かけや環境づくりを進める。</p> <p>○清掃手順の再確認や役割分担の明確化を通して、全員参加型の美化意識をさらに高める。</p>
積極的な広報活動の実施	<p>オープンスクール・学校説明会・ホームページ（HP）・ソーシャルネットワークサービス（SNS）等を通して、小中学生・保護者・地域へ積極的に情報発信を行う。</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの教職員は広報活動に一定の意識をもって取り組んでいる。</li> <li>・学校の特色や教育活動を適切に伝える取り組みは高い評価を得ている。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報に対する教職員の意識にばらつきがある。今後は、各部署が主体的に情報を発信する体制づくりを促進し、より効果的な広報活動ができる形を整えていく必要がある。</li> </ul>	<p>○情報発信について教職員の共通理解を深めるとともに、役割分担等を整え、各部署が主体的に広報活動に取り組む。</p> <p>○外部から寄せられた意見を踏まえて情報発信のあり方を継続的に改善する。</p> <p>○HPやSNSなどの媒体を効果的に活用し、発信内容の質と量の両面で一層の充実を図る。</p>
業務改善の取組み	<p>業務の見直し・精選・削減の取り組みを前年より進める。</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外在校等時間が80時間を超える教職員がわずかに減少した。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員一人ひとりの授業準備、考査の作成・採点、事務処理等におけるICTの活用が進まず、業務の軽減には至らなかった。</li> <li>・業務を見直して、精選や削減に結びつけることが不十分だった。</li> </ul>	<p>○各部、学年と連携して学校行事を見直し、業務の精選や削減を図る。</p> <p>○校内研修を積極的に実施するなどして、校内業務におけるICT活用を強化し、より効率的に業務を遂行する。</p> <p>○全教職員に対し、健全なワーク・ライフ・バランスに関する意識を喚起するよう働きかけるとともに、時間外在校等時間が多くなる傾向のある教職員に対して管理職が面談を行い、該当教員の業務に臨むスタイルを再点検するなど、課題の根本的な解決を目指す。</p>